



発行責任者

校長 有崎 美紀

府中中央小学校ホームページ <http://chuosho.fuchu-town.ed.jp>

親思う ころにまさる親ごころ けふの音づれ 何ときくらん

この有名な和歌は、吉田松陰が亡くなる前に詠んだものです。自分を育ててくれた親に対して感謝していても、自分が受けてきた親の愛は、親を思う私の気持ちの何倍もの大きさ、深さがあるということ、そのような親に悲しい思いをさせて申し訳ないというお詫びと感謝の気持ちが伝わってきます。

9月14・15日、6年生は山口県に修学旅行に行ってきました。松陰神社で出会った冒頭の歌碑の前で、子どもたちはガイドさんの説明に静かに耳を傾けていました。また、1泊2日の旅行を終えもう少しで学校に到着するという時、バスガイドさんが、あらためてこの和歌を詠んでくださり、「みなさんを待ってくださっている親御さんは、みなさんが思う以上に、みなさんのことを思ってくださいているのですよ。おうちに帰ったらお土産と一緒に感謝の言葉を述べてくださいね。」と話してくださいました。

旅行中、6年生は、行く先々であいさつを意識し、感謝の思いを態度で示そうと努めました。脱いだ靴が整然と並んでいる様子やお世話になった方々に「ありがとうございます」と素直に言える姿を見て、さすがはちの子だなと嬉しくなりました。

子どもと関わる大人たちが、子どもの育ちのために注ぐ愛と温かい応援があつてこそ、「自ら伸びる」意思をもった子どもたちが育つと考えます。子どもたちから「ありがとう」と言われることを求めるわけではありませんが、子どもたちの心に自然に感謝の気持ちがわき出るような、人間が人間を育てるうるおいのある教育を一緒につくっていきましょう。

「あいさつ・感謝・学び」の修学旅行



【発表式】児童代表あいさつ

六年二組 長井悠市郎

ぼくは、小学校生活一度きりの修学旅行のために、今日まで病気になるように外出をひかえました。そして、ついに修学旅行の日がやってきました。バンザイ。ぼくの心の中はワクワクしています。みなさんはどうですか。ぼくは、海響館や秋吉台サファリランドに行くことよりも、みんなで旅行で楽しく話し、みんなです。

「修学旅行、楽しかったなあ。」といえる思い出をつくりたいです。

修学旅行で伸びたいことは、秋吉台サファリランド、秋芳洞や手びねり体験を通して、初めての体験に立ち向かうことです。気持ちのよいあいさつをすること、感謝の気持ちを通して学びを深めることです。もちろん修学旅行を経て何かの学びを得ることも大切ですが、一生に一度のここにいるみんなでいける修学旅行なので、「もう満足！これ以上はない。」と思える修学旅行にしましょう。

日程 1日目：学校出発⇒秋吉台⇒秋芳洞⇒秋吉台サファリランド⇒松陰神社⇒萩反射炉⇒旅館
2日目：旅館⇒明倫学舎⇒海響館⇒学校着



【帰校式】 児童代表あいさつ

六年三組 福田龍平

みなさんは修学旅行でどんなことを学びましたか。小学校最後のイベント、そして一度きりの修学旅行を楽しめましたか。ぼくは学んだことが二つあります。一つ目は、新しいことに挑戦する楽しさです。手びねりや秋芳洞、初めての体験にドキドキわくわくしました。

二つ目は、たくさんの人たちと協力することの大切さです。修学旅行では、たくさんの人とかかわりました。たくさんの人たちがいなければ、修学旅行も実現できませんでした。

ぼくはとても楽しい二日間をすごすことができました。これは協力してくださった人たちのおかげです。みなさんは修学旅行で、さわやかなあいさつをし、たくさんの人たちに心をこめて感謝できましたか。

今回の修学旅行で学んだことを生活の中に取り入れ、他学年のお手本になれるような行動をとりましょう。

「じまんの俳句」第4回目の代表作品

今回は、全学年が夏休みの思い出を俳句にしました。今回から1年生も俳句作りに挑戦しました。

2学期が始まり、それぞれの学年の山場に向かって進んでいくことでしょう。2学期も、その時強く感じたことやその時の気持ちを生き生きと表現した俳句がつけられることを期待しています。

夏休みには、うだるような暑い日が続きました。昼間だけでなく、夜も寝苦しかったことでしょう。そんな時は、扇風の真ん中に座り、冷たいアイスを食べるのは最高ですね。「アイス食べる」ではなく、「アイス食う」という表現からは、冷たいアイスを口いっぱいにはおぼっている様子が目に浮かびます。

あついよる せんぷうきつけ アイスくう

一年 西田 健

夏休み最後の日の光景を詠んだ俳句でしょう。この俳句からは、夏の楽しげな雰囲気とは違って、どこか薄暗い、しんとした静けさが伝わってきます。久しぶりに学校に行く準備をすませて机の上に置いてあるランドセルをどんな気持ちで見つめているのでしょうか。いよいよ始まる2学期に向けて、決意を新たにしている姿が見えるようです。

夏終わり わたしのまえに ランドセル

四年 河本 純愛

すいか割りをしている人のまわりに、たくさんの人だからがでている光景が目につかびます。また、「もつと前」とか「そっちゃんやない」などと、無責任にはやし立てているにぎやかな声まで聞こえてきそうな俳句です。「信用できない」に続く「前、前、前」の話し言葉だけで、読み手に、すいか割りの光景を鮮やかに、はつきりと思ひ浮かばせてくれる見事な俳句です。

すいかわり 信用できない 「前、前、前」

五年 三戸 憲太

学校評価アンケートの結果について

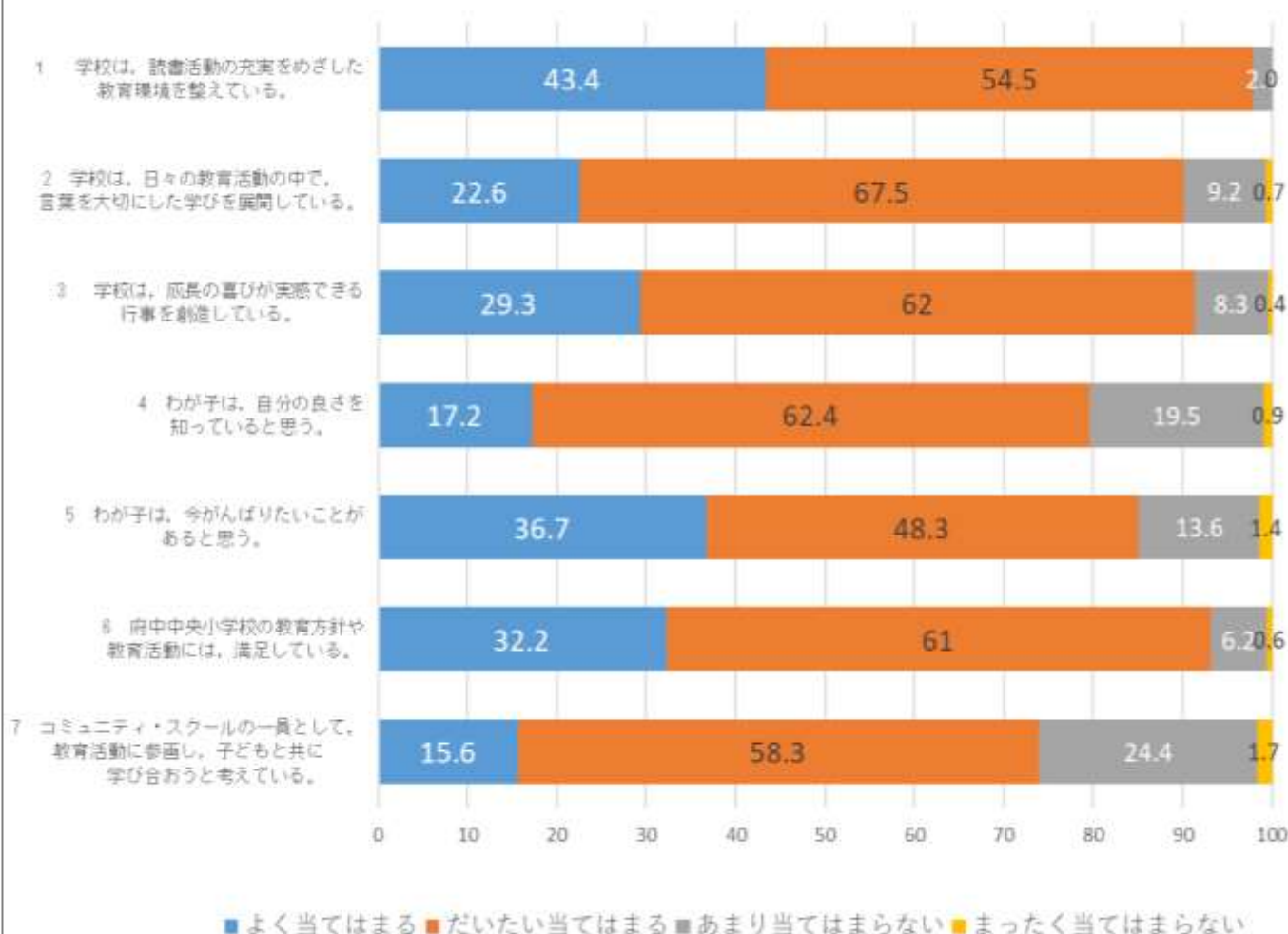
保護者の皆様には学校評価アンケート（7月実施）へのご協力ありがとうございました。結果は次のとおりです。

「読書活動の充実をめざした教育環境の整備」「言葉を大切にした学びの展開」「成長の喜びが実感できる行事の創造」及び「府中中央小の教育への満足度」については、90%以上の肯定的評価をいただいています。学校への信頼をいただけていること、本校が重点を置いている教育活動にご理解いただけていることを心強く思います。

しかし、児童の「自己認識」に関わる項目や「児童や大人の集いが充実する環境づくり」に関する項目の肯定的評価は、80%を超えていません。2学期以降は各学年の児童の実態に応じ、学習発表会等の学校行事や現有の教育活動を通して児童一人ひとりの「よさ」や「伸び」を丁寧にとり、評価していきます。

今後も子供たちの成長を願って教職員が保護者の皆様、地域の方々と一体となり、本校の教育活動の充実を図ることができるよう取組の改善を進めてまいります。保護者の皆様には引き続き、ご支援・ご協力をお願いします。

令和4年度 第1回学校評価アンケート結果



4年総合的な学習 ～わたしたちにできることは何だろう？～

4年生は総合的な学習の時間にSDGsに関する身近な課題について学習しています。

9月15日（木）1・2校時に、府中町環境課、府中町脱温暖化市民協議会、広島県環境保健協会、（株）ハローズの方々にご協力いただき、「食品ロス」や「地球温暖化」について学習しました。廃棄間近になった食品を実際に見せたり、動画やクイズを交えたりして分かりやすくお話をしていただきました。

これから、4年生は自分たちにできることは何かを考え、学習発表会で発信します。この学習が、身近な環境問題についてご家庭でお子さんと一緒に考え、取り組むきっかけになればと思います。



コミュニティ・スクールのキャラクターが誕生しました！

1学期にCS事務局より募集があった中央小のキャラクターがついに決定しました。たくさんの応募の中から多かったキャラクターを組み合わせ、「のびい」が誕生しました。

9月8日（木）のお昼の「はちの子 Meet」で、CS事務局の方が児童に紹介してくださいました。

「のびい」に込められた願いのように、子どもたちがぐんぐん伸びていくことができるように、保護者の皆さん、地域の方々と共に子どもたちを育てていきたいと思っています。



のびい です！



【お知らせ】

給食費について

新型コロナウイルス感染症等に起因した学校給食食材の高騰に対し、学校給食費に係る保護者の負担を軽減することを目的として、府中町より児童一人につき1日15円の補助金が交付されます。補助金は、給食食材の購入に充てられます。お知りおきください。

【お願い】

いつも新型コロナウイルス感染症対策にご協力いただきありがとうございます。ご協力いただいている基本対策に加え、校内で「感染源を絶つ」ために、次の2点についてご協力ください。

- (1) 発熱等の風邪症状がある場合には登校させないでください。
- (2) 児童本人のみならず、同居家族に風邪症状のある場合の自宅待機にご協力ください。同居家族を含めた健康状態の確認にご協力ください。

よろしくお願いします。